

はしがき

本書は、経営学的なアプローチから、リスクマネジメントの基本的な考え方をまとめた総論書である。リスクマネジメントは、保険を中心とするファイナンス的なアプローチを第一の流れとし、安全工学的なアプローチを第二の流れとして発達してきた。第三、第四、第五の流れとして、経営学的なアプローチ、防災・減災科学的なアプローチ、法学的なアプローチが存在している。

リスクマネジメントや危機管理の考え方は、企業のみならず、個人と家庭、地域社会と学校、行政と国家、医療機関、余暇活動などに適用されて、さまざまな分野にひろがりを見せている。

経営学的なアプローチから見た場合、リスクマネジメントのトレンドには次に示すようなものがあるが、本書にはこれらを何らかの形で盛り込んでいる。

- ・リスクマネジメント委員会など、具体的な組織体制の構築。
- ・リスク・コミュニケーションとしてのリスク情報の開示。
- ・ISO31000など、リスクマネジメントに関する国際規格の参照。
- ・大規模災害を想定したBCP（事業継続計画）の策定。
- ・CSR（企業の社会的責任）の観点からのアプローチ。
- ・「モノ・カネ」だけでなく「ヒト・ココロ」をも対象にしたリスクマネジメント。心の危機管理。リスクマネジメントとしてのメンタルヘルス。
- ・社会的なリスクに対して企業・行政・地域社会が連携して対応するソーシャル・リスクマネジメントの考え方の実践。企業リスクマネジメントはソーシャル・リスクマネジメントの一角を担うという意識。
- ・リスク・ファイナンスの新展開。
- ・中小企業のリスクマネジメント。事業承継問題。
- ・ファミリー企業の経営課題。
- ・危機管理とリーダーシップ。

本書は2011年3月に関西大学出版部より刊行した『リスクマネジメントの基礎理論と事例』に全面的に加筆修整を加えたものである。大きな変更点は、ソーシャル・リスクマネジメントが重要であるという認識から、地域社会とのつながりが強い中小企業における「事業承継問題」「経営者のメンタルヘルス」「BCM（事業継続マネジメント）」に関する3つの章を付け加えたことである。

まことに拙い内容ではあるが、本書がリスクマネジメントの基礎的な学習をする読者の方々に何らかの参考になれば幸いである。

本書刊行にあたり、本書の初版に相当する『リスクマネジメントの基礎理論と事例』（2011年）の出版にご尽力下さった学校法人関西大学、とりわけ関西大学出版部の方々にあらためて感謝の意を表す。そして、本書刊行にあたり編集の労をとって下さった法律文化社の秋山泰氏に心より御礼申し上げたい。

浅学非才の筆者ゆえ、本書の内容において、未熟な点や誤りが多々あることと思う。読者の方々からのご指導を心より期待する次第である。

2014年11月

亀井克之